

今日のトピック インフレが落ち着いてきたインドの金融政策（2018年4月） 政策金利は据え置き、物価見通しは下方修正

ポイント1 政策金利は据え置き 6名中1名は利上げに投じた

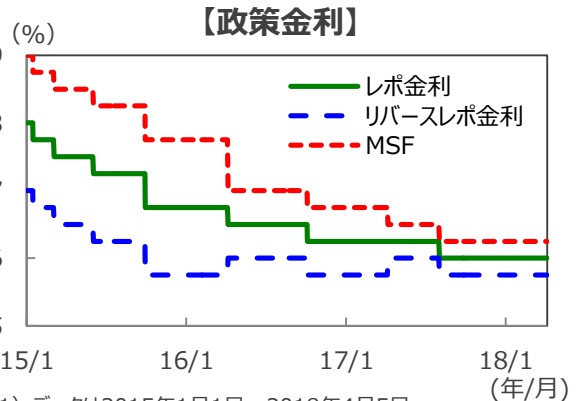
- インド準備銀行（中央銀行、以下RBI）は4月5日の金融政策委員会（MPC）で、市場予想の通り、政策金利（レポ金利）を6.00%で据え置くことを決定しました。6名の委員のうち5名が据え置き、1名が利上げに投票しました。

ポイント2 物価見通しを下方修正 野菜価格の落ち着きが主因

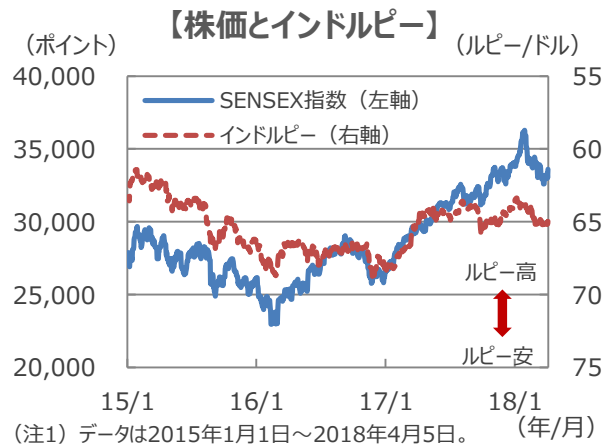
- インドの2月の消費者物価指数は前年同月比+4.44%と、1月の同+5.07%から上昇率が低下しました。これは、野菜価格や原油価格が下落したためですが、中銀の物価目標レンジ（+4±2%）に収まっています。
- RBIは物価見通しについて、18年度（18年4月～19年3月）の上半期は前年同期比+4.7～5.1%（前回+5.1～5.6%）、下半期は同+4.4%（前回+4.5～4.6%）と下方修正しました。今後は、食品価格が落ち着いて推移すると見込まれていることが、下方修正の主因です。

今後の展開 18年度は経済成長が加速する見込み

- RBIは、インドの17年度（17年4月～18年3月）のGDP成長率は+6.6%と、物品サービス税（GST）導入の影響から個人消費の伸びが緩やかとなり、前年度の+7.1%から減速したと予想しています。また、18年度の経済成長については、投資活動に回復が見られていることや、世界的な需要の改善などを背景に、+7.4%へと成長率が加速すると見込んでいます。
- 今回のMPCを受けて、インフレ見通しが下方修正されたことから、利上げ観測は一旦後退しました。これにより、インド株式市場ではSENSEX指数は前日比で上昇、債券市場では金利が低下（債券価格は上昇）しました。



(注1) データは2015年1月1日～2018年4月5日。
(注2) MSFは、Marginal Standing Facility（貸付ファシリティ）の略で、コールレートの上限とみなされます。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



(注1) データは2015年1月1日～2018年4月5日。
(注2) インドルピーは逆目盛。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ここもチェック! 2018年3月27日 インドの経済・市場動向（2018年3月後半） 2018年3月 6日 中長期で上昇が期待されるインド株式市場

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。